●クラシカル・マインド・フェスティバル＆コンクール

クラシカル・マインド・フェスティバル＆コンクールが、テキサス音楽祭の後援により6月11～16日の間、10周年記念行事を開催した。このイベントのスポンサーは、サバレス社、KUHA-FM放送、ヒューストンNPRラジオのクラシック音楽番組 "The Front"、FOX 24ニュース、ストリングス・バイ・メイル、アキレス・トーレス・ギター、マキオーネ・ギター、テキサス芸術コミッションである。芸術監督のヴァレリー・ハーツェルと、テキサス音楽フェスティバル総合芸術監督のアラン・オースティンが、このフェスティバルを運営した。

ハーツェル女史のクラシックギター歴は、3歳でハーフサイズのラミレスギターを使ったことから始まる。6歳から8歳の間は、フランスのニースで行なわれた夏期国際アカデミーでアレクサンドル・ラゴヤに師事した。

「中学生になった私は、夏になるとニースに行き、伊藤亜子先生のところで勉強しました。この先生は、私の演奏法を確立するのに影響を与えた重要な方です」

ハーツェルは、米国のピーボディ音楽院でマヌエル・バルエコに師事し、1997年に学士号を取得。ラドフォード大学でギター教育の研究奨学金を獲得した彼女は、音楽学部の大学院修士課程在籍中に助手を務め、1999年に修士号を取得した。彼女のCD『Ex Tenebris Lux』は、2011年にヒューストンのNPRラジオスタジオで録音・製作された。彼女は、ポートランド・ギターコンクール、イースト・カロライナ大学コンクール＆フェスティバル、アパラチア・ギターフェスティバル＆コンクールにおいて入賞。イタリアで開かれた第10回シモーネ・サルマーゾ国際ギターコンクール及び、フランスで開かれたヴィラ＝ロボス国際ギターコンクールでは第1位を獲得した。

ハーツェルが、2003年にこのフェスティバルを始めたのは、その前年の2002年に、ヒューストン大学が"クロス・エンカウンター"ボイス＆ギター室内楽フェスティバルの共催を、彼女に提案してきたのがきっかけだった。このギターフェスティバルの参加者は、当初の19名から現在の55名へと増加してきた。

「このコンクールは、フェスティバルの後半3日間を使って行ないますが、フェスティバルは個人レッスン、マスタークラス、大人数のアンサンブル、テクニック講座、リサイタル、ワークショップとレクチャーで構成されています」

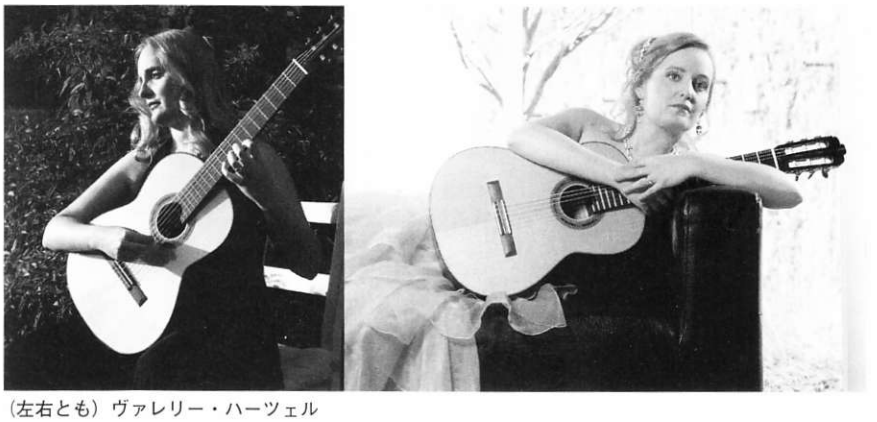
これまでの教授陣は、Frères Méduse、Randall Avers、Gohar Vardanyan、Ernesto Tamayo、Adam Holzman、Martha Masters、Edel Munoz、Jerome Ducharme、Isaac Bustos、Kithara Duo〈Olga Amelkina-Vera & Fernand Vera〉。今年の講師陣は、Matt Palmer、Gohar Vardanyan、Andy Mitchell、Julia Crowe、Valerie Hartzell、Lynn McGrath、Rachel Loss-Cutler-Hull、Andrea Cannonであった。

ピーボディ音楽院の卒業生であるギタリスト兼作曲家のアンディー・ミッチェルは、レクチャー・リサイタルを行ない、クラシックギターのための作品の作曲技法について講演する傍ら、参考となる音楽作品をハーツェルがギターで演奏した。ミッチェルは、『音楽を準備する練習から公演まで』と題したワークショップを行ない、暗譜の仕方や、ギタリストが自信を持って舞台に上がるための練習技法について解説した。

Jonno Garver、Corey Sams、April Sealsという3人の学生がメンバーであるダラスのプラノ・トリオと、Andrea CannonとRachel Loss-Cutler-Hullというクラシカル・マインズのスタッフによるモーニング・リサイタルが行なわれた。バークレー音楽大学の卒業生であるAndrea Cannonは、主としてジャズに力を入れてきた。クラシックギターを南メソジスト大学のロバート・ガスリーに師事したが、鈴木メソッドの講師でもある。Rachel Loss-Cutler-Hullは、ギターを、ダラスのテキサス大学でEnric Madriguera に、南メソジスト大学でロバート・ガスリーに師事した。彼女は、ダラスのイーストフィールド短期大学における音楽学部の講師陣の1人である。

Fernand Vera教授は、テキサスのプラノからきたコリン短期大学のThe One O'Clock Guitar Ensembleによる特別公演を指揮し、ダウランド〈恋人よ目醒めよ〉、パスロー〈うちの亭主は男前でお人好し〉、マックピーク〈ワイルド・マウンテン・タイム〉、ジョセフ・ウィリアムス〈Eighteen 263〉、グノー〈操り人形の葬送行進曲〉、ラウロ〈El Totumo de Guarenas〉を演奏した。アンサンブルの構成メンバーは、Vera教授の生徒であるEnrique Armas、Jonno Garver、Cory Sams、April Seals、Josh Smith、Christine Woodである。

筆者（ジュリア・クロウ）は、ECMプレスから出版してベストセラーとなった著書『私の最初のギター：真の愛と思い出の和音の物語』について講演した。この本は、幅広いジャンルの中から伝説的なギタリスト約70人を選び、彼らが音楽家としてスタート出来た背景について、直に聞いた話が記録されている。この本で取り上げられたクラシックギタリストは、エリ・カスナー、デイヴィッド・ラッセル、カルロス・バルボサ＝リマ、シャロン・イズビン、ファビオ・ザノン、アサド兄弟、ホルヘ・モレル、ローラン・


（左右とも）ヴァレリー・ハーツェル

ディアンス、ベンジャミン・ヴァードリー、フレデリック・ハンド、ロサンゼルス・ギター・カルテット、デイヴィッド・レイスナーである。他に、インタビューに協力してくれた人としては、フラメンコギタリストのファン・マルティン、パコ・ペーニャ、デニス・コスター、リュート奏者のリチャード・ブルーンがいる。

今回のフェスティバルで演奏したギタリストの中には、キタラ・デュオ（オルガ・アメルキナ・ヴェラとフェルナンド・ヴェラ）、エレクトリック・フィンガー・ギタリスト兼作曲家のジュリア・クロウ、クラシックギタリストのゴアー・ヴァルダニアン、同じくクラシックギタリストでソリストのマット・パーマーが含まれている。

ベラルーシ出身のオルガ・アメルキナ・ヴェラは、ヒューストンのセント・トーマス大学において最優秀の成績で学士号を取得し、北テキサス大学で音楽学の博士号を取得している。彼女は演奏家であるだけではなく、フランク・クーンス・シリーズで選ばれた2作品を含め、d'OZプロダクションが出版している作品で賞を取っている作曲家でもある。彼女は、女性だけのプロのギターアンサンブルとしてはアメリカ初のギタートリオ“プレスティ”のメンバーでもある。現在、テキサス州のプラノにあるコリン短期大学で、ギター、作曲、音楽史を教えている。

フェルナンド・ヴェラは、ヒューストンのセント・トーマス大学で音楽学士号を取得し、北テキサス大学で音楽学の修士号と博士号を取得している。彼は、オルガと、初心者のためのギター教本上下2巻を共著し、現在第5版が出版されている。彼は、コリン短期大学のギター科の責任者である。

オルガとフェルナンドは、2人が北テキサス大学の大学院生だった2002年に、夫妻でギターデュオを結成した。オルガがギターデュオのために書いた作品を録音したデビューCD『Beings』が最近リリースされたが絶賛を博している。今回のフェスティバル期間中に、音響の素晴らしいオルガン・リサイタルホールで開催された2人のコンサートは、オルガの編曲によるアルフォンソ・フェラボスコI世〈若者のガリアルドとクーラント〉、メルツ〈3つのエレジー〉、アルベニス〈マジョルカ〉と、グルーバー＆マークラーが編曲したファリャ〈粉屋の踊り〉、〈火祭りの踊り〉を演奏した。

この晩、次に演奏したのは、クラシカル・マインド・フェスティバルに初出演のジュリア・クロウである。彼女は、NPRラジオで特集された自作品を、エレキギターを使ってクラシックギターのテクニックで演奏した。彼女は、ジョン・グロスマンとトム・マッコート製作のドキュメンタリー映画『Drop City』のサウンドトラックに使われた作品で賞を獲得した作曲家である。この作品は、ニューヨーク近代美術館、アムステルダムのボッシュ・アート・フィルム・フェスティバル、ロンドンのバービカン・シネマで上映された。彼女の演奏曲目は、彼女の2つのアルバム『光の帝国』と『煙とスチール』に録音されている作品だった。

2日目のイブニングコンサートのオープニングは、アメリカのNPRラジオやアルゼンチンの国営放送に出演しているアルメニアのギタリスト、ゴアー・ヴァルダニアンの演奏だった。彼女はピーボディ音楽院でマヌエル・バルエコに師事して学士号を取り、その後ジュリアード音楽院でシャロン・イズビンに師事し修士号を取得した。彼女は、最近メルベイから新しく出版された『クラシックギターの完全なウォームアップ法』の著者である。彼女の演奏プログラムは、ポンセの《組曲イ短調》、バリオス〈森に夢見る〉、アルカス〈椿姫の主題による幻想曲〉、ロドリーゴ〈祈りと踊り〉、ピアソラ〈ブエノスアイレスの春〉だった。

続いてマット・パルマーが演奏した。演奏曲目は、彼のCD『かつて音に聞こえしイタリカ』に収録された作品の中から、ロドリーゴの同名の作品、シテパン・ラックの〈ソナタ・モンゴリアーナ〉、ポンセ《24の前奏曲集》より〈第6番〉、〈第5番〉、〈第15番〉、〈第8番〉、〈第13番〉、〈第11番〉、バッハ〈シャコンヌ BWV1004〉、アセンシオ《内なる想い》であった。

パルマーは、アリゾナ大学でトーマス・パターソンと、客員教授のデイヴィッド・ラッセル、セルジオ・アサドとオダイル・アサドに師事し音楽学博士号を取得している。彼はミドルテネシー州立大学でウイリアム・イエルヴァートンに師事し、ノースカロライナ州のアパラキアン州立大学で音楽学修士号を取得しているが、ここではダグラス・ジェイムスに師事した。

フェスティバルと併せて開催されたクラシカル・マインド・ギターコンクールの入賞者は次の通り。

◎大学生・大学院生の部
第1位：Roberts Brown、第2位：Jordan Taylor、第3位：Kyle Comer、第4位：Stephen Krishnan

◎高校生の部（13～19歳）
第1位：Alexander Bainter、第2位：Avriel Medina、第3位：Clara McLain、第4位：Frances Karim Chiroque

◎ジュニアの部（9～13歳）
第1位：Tiffany Chang、第2位：Mark Citzman、第3位：Ramiro Guevara、特別賞：Jareth Hernandez

次回以降のフェスティバルの展望についてハーツェルは以下のように語った。

「2014年は、すべてテキサスの教授陣で開催し、そして2015年には、すべて女性の教授陣での開催を計画しています。来年の教授陣としては、テキサス大学のアダム・ホルツマン、テキサスA&Mのイサーク・ボストス、ブラヌンズビルのテキサス大学ブラウンズビル校からジョナサン・ドットソン、テキサス大学ダラス校からエリック・マドリグエラ、ダラスのコリン短期大学からフェルナンド・ヴェラなど、規模の大きいテキサス大学と短大から教授陣を集めることにしています。私どもの目標は、若く元気な教授陣と既に確立されたギタープログラムとの融合です。このフェスティバルの目標は、ギター教育の振興にありますから」

詳しい情報は以下を参照：
http://www.valeriehartzell.com/frhome.cfm

高校生の部入賞者

ジュニアの部入賞者